

事務事業マネジメントシート (20年度実績と21年度計画)

21年度予算編成後平成 21 年 5 月 19 日 作成  
20年度決算把握後平成 21 年 5 月 20 日 作成

事務事業名		須屋線交通安全施設整備事業			<input checked="" type="checkbox"/> マニフェスト関連	<input checked="" type="checkbox"/> 全庁横断課題関連	<input type="checkbox"/> 集中改革プラン関連
総合計画体系	政策	1	人々が安全に安心して暮らせるまちづくり		所属部	都市建設部	課長名 上原 哲也
	施策	3	交通安全対策の推進		所属課	建設課	担当者名 塩崎 史
	基本事業	10	交通安全施設の整備		所属班	工務班	(内線) 2277
					法令根拠		

予算科目	会計	1	款	8	項	2	目	3	事業連番	10048	<input type="checkbox"/> 20年度で終了	<input type="checkbox"/> 21年度から開始	成果優先度評価結果	1	
														コスト削減優先度評価結果	7

事業期間  単年度のみ  単年度繰返(開始年度 年度)  期間限定複数年度 ( 17 ~ 23 年度)

事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)  
**【事業の内容】**  
 国道387号と市道須屋陣の平線を結ぶ幹線の役割を果たす市道L=1,000mの歩道設置、拡幅、舗装をおこなう交通安全事業である。  
**【業務の流れ】**  
 17年度  
 ①地域より要望を受け、②現況状況の把握により必要性を検討、③地元説明会を開催し要望を再確認  
 18年度～  
 ④補助事業採択申請、⑤測量設計業務、関係機関との協議、⑥補助事業竣工確認検査  
 19年度～  
 1 現状把握の部(DO, PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		
① 手段(主な活動)	21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN)	関係機関との協議、用地交渉、道路改良工事
20年度実績(20年度に行った主な活動)(DO)		
建物等補償調査業務委託、関係機関との協議、境界立会、用地交渉、分筆・所有権移転登記、擁壁工事		
	⑤活動指標(事務事業の活動量を表す指標)=①の指標 (単位)	
	ア 用地買収面積	m
	イ 道路改良延長	m
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等	⑥対象指標(対象の大きさを表す指標)=②の指標 (単位)	
須屋線道路	ア 全改良延長	m
	イ	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)	⑦成果指標(意図の達成度を表す指標)=③の指標 (単位)	
道路を拡幅し、車道と歩道を分離することにより安全・快適に通行できるようにする。	ア 整備率	%
	イ	
④ 上位の目的(さらにどんな目的に結び付けるのか)	⑧上位成果指標(上位目的の達成度を表す指標)=④の指標 (単位)	
事故誘発の要因とならない道路になっている。	ア 設置箇所数/地区からの要望箇所の内、必要と判断された箇所数×100	%
	イ	

(2) 総事業費・指標等の推移											
投入量	事業費	国庫支出金	千円	13,200	69,300	248,600	163,053	162,547	124,300	23,100	全体計画 17 ~ 23 年度 490,600  397,900  28,996 917,496  135 11 10,324 41,090 958,586
		都道府県支出金	千円								
		地方債	千円	10,200	53,800	193,200	126,700	143,100	96,600	18,000	
		その他	千円								
		繰入金	千円								
		一般財源	千円	600	2,900	10,200	6,707	15,389	5,100	900	
		(A) 事業費計	千円	24,000	126,000	452,000	296,460	321,036	226,000	42,000	
		うち指定経費	千円	0	0	0	0	0	0	0	
		うち時間外、特殊勤務手当	千円	0	20	40	65	50	0	0	
		人件費	人	4	4	4	11	6	4	4	
正規職員従事人数	人	4	4	4	11	6	4	4			
延べ業務時間	時間	1,120	1,920	2,240	3,284	3,000	1,000	1,000			
(B)人件費計	千円	4,446	7,642	8,915	13,070	11,940	3,980	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円	28,446	133,642	460,915	309,530	332,976	229,980	42,000			
活動指標	ア m	0	1270	3390	4043	1749	1486	0			
	イ m	0	0	0	0	280	560	160			
対象指標	ア m	1000	1000	1000	1000	1000	1000	1000			
	イ										
成果指標	ア %	0	0	0	0	28	84	100			
	イ										
上位成果指標	ア %	90	92.5	92	92	93	95	100			
	イ										

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等  
 ① この事務事業を開始したきっかけは何か?いつ頃どんな経緯で開始されたのか?  
 市道須屋線は、道路幅員は狭く、歩道は未整備の為、朝の通学時間帯は小中学生の通行が非常に危険である。  
 地元要望により必要性を検討した結果、平成18年度から事業開始となった。  
 ② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか?  
 変化は見られない。  
 ③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?  
 地域住民並びに道路利用者からの道路拡幅及び歩道設置の要望がある。

事務事業名	須屋線交通安全施設整備事業	所属部	都市建設部	所属課	建設課
-------	---------------	-----	-------	-----	-----

2 評価の部(SEE) \*原則は20年度の事後評価、ただし複数年度事業は20年度における途中評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 結びついている ⇒【理由】↷ 道路を拡幅し、車道と歩道を分離することにより、安全・快適に通行できる。
	② 公共関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 妥当である ⇒【理由】↷ 本路線は市道であり、安全かつ快適な通行を図ることは市の義務であるため妥当である。
	③ 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 適切である ⇒【理由】↷ 道路改良は、通行車両等において必要不可欠な事業であり、施行後は快適かつ安全に移動できる手段として利用されるため、意図も適切である。
有効性 評価	④ 成果の向上余地 成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 向上余地がない ⇒【理由】↷ 成果は事業が完了しないと発揮できないが、現在、測量設計が完了している。これからは、事業最終年度完了を目標に、用地買収・改良工事を進めていく。
	⑤ 廃止・休止の成果への影響 事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響無 ⇒【理由】↷ 21年度計画(21年度に計画している主な活動)(PLAN) <input checked="" type="checkbox"/> 影響有 ⇒【その内容】↷ 改良を行わなければ、安全な通行に支障をきたすため、事業を廃止・休止することは地域の活性化を阻害することとなる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	<input type="checkbox"/> 他に手段がある ↷ (具体的な手段、事務事業) <input type="checkbox"/> 統廃合・連携ができる ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 統廃合・連携ができない ⇒【理由】↷ 市道改良においては、庁舎内でも建設課のみ施工しており類似事業はない。  <input type="checkbox"/> 他に手段がない ⇒【理由】↷
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地 成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 用地買収及び工事積算においても、リサイクル法等の適用によりコスト縮減に努め経済比較を行いながら単価等の決定を行っているため余地はない。
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地 やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 削減余地がない ⇒【理由】↷ 本事業は、国庫補助事業採択により施行しており、事業主体は市とされているため必要最小限度内において職員を分担している。 よって正職員以外の職員は担当できない。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	<input type="checkbox"/> 見直し余地がある ⇒【理由】↷ ⇒3評価結果の総括(SEE)に反映 <input checked="" type="checkbox"/> 公平・公正である ⇒【理由】↷ 地域はもとより市民の通行利用もあることから、公正であると判断できる。

3 評価結果の総括(SEE)

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ② 有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input checked="" type="checkbox"/> 見直し余地あり ③ 効率性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④ 公平性 <input checked="" type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり	①目的妥当性については、…。 ②有効性については、…。 ③効率性については、…。 ④公平性については、…。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(PLAN)

(1) 今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的再設定 <input type="checkbox"/> 事業統廃合・連携 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(有効性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(効率性改善) <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善(公平性改善) <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(2) 改革・改善による期待成果(廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>低下</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上		○		維持					低下			
				コスト																			
		削減	維持	増加																			
成果	向上		○																				
	維持																						
	低下																						

(3) 改革, 改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策

5 事務事業貢献度評価結果(施策の統括課長の総括)

(1) 目的の直結度	4	( 直結度高い 1~3 直結度中 4~6 直結度低い 7~9 )
(2) 貢献度	8	( 貢献度高い 1~3 貢献度中 4~9 貢献度低い 10~12 )